

リーディングDXスクール事業【実践事例】

伊是名村立伊是名中学校

- 【取組内容①】 **「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウド活用」**
 ・生徒自身の考え方を学習支援ソフトで共有、それを基に協働的な学びの充実に繋げていく



【取組内容①】

2学年道徳（5年研/互見授業）において
 タブレット端末を活用した授業が行われた。

まずは授業の導入部分で端末を活用してアンケートを実施。（学習支援ソフト・アンケート活用）

本時の「めあて」に対する個々の考え方を共有し、後半の授業の展開を促していく。

生徒個別の考え方から、他者の考え方に触れることで自分の考え方を見直したり、比較することで個別の学びを更に深化させていく取り組みがなされている。電子黒板にてアンケート内容を即座に共有。そうすることで、連続的な学びの確認が出来ていると思われる。



グループでの討論、発表および振り返りを学習支援ソフトにて提出。

現在、学校全体として端末を活用した授業の取り組みを推進している。以前は紙媒体のプリントも端末を活用することで、授業の効率化を図ったり、瞬時に答えを確認・共有することが出来るので、他者の考え方にも触れることが可能となった。

互見授業を通して、他教師の授業内容を見るだけでなく、端末の使い方や生徒の考え方も可視化できるので、そういう機会も創出出来ているといえる。

授業開始のアンケートから振り返りまでの生徒の意識変容を可視化できることは、教師のみならず、生徒間の学びにも大きく影響すると思われる。